

令和7年度（2025年度）学校評価について【北海道星置養護学校石狩紅葉山校舎】

1 保護者評価について

(1) 回答率

- ア 石狩紅葉山校舎小学部 91.6% (33名提出/36名在籍)
- イ 石狩紅葉山校舎中学部 100% (14名提出/14名在籍)
- ウ 石狩紅葉山校舎全体 94% (47名提出/50名在籍)

(2) 結果

ア 評価点

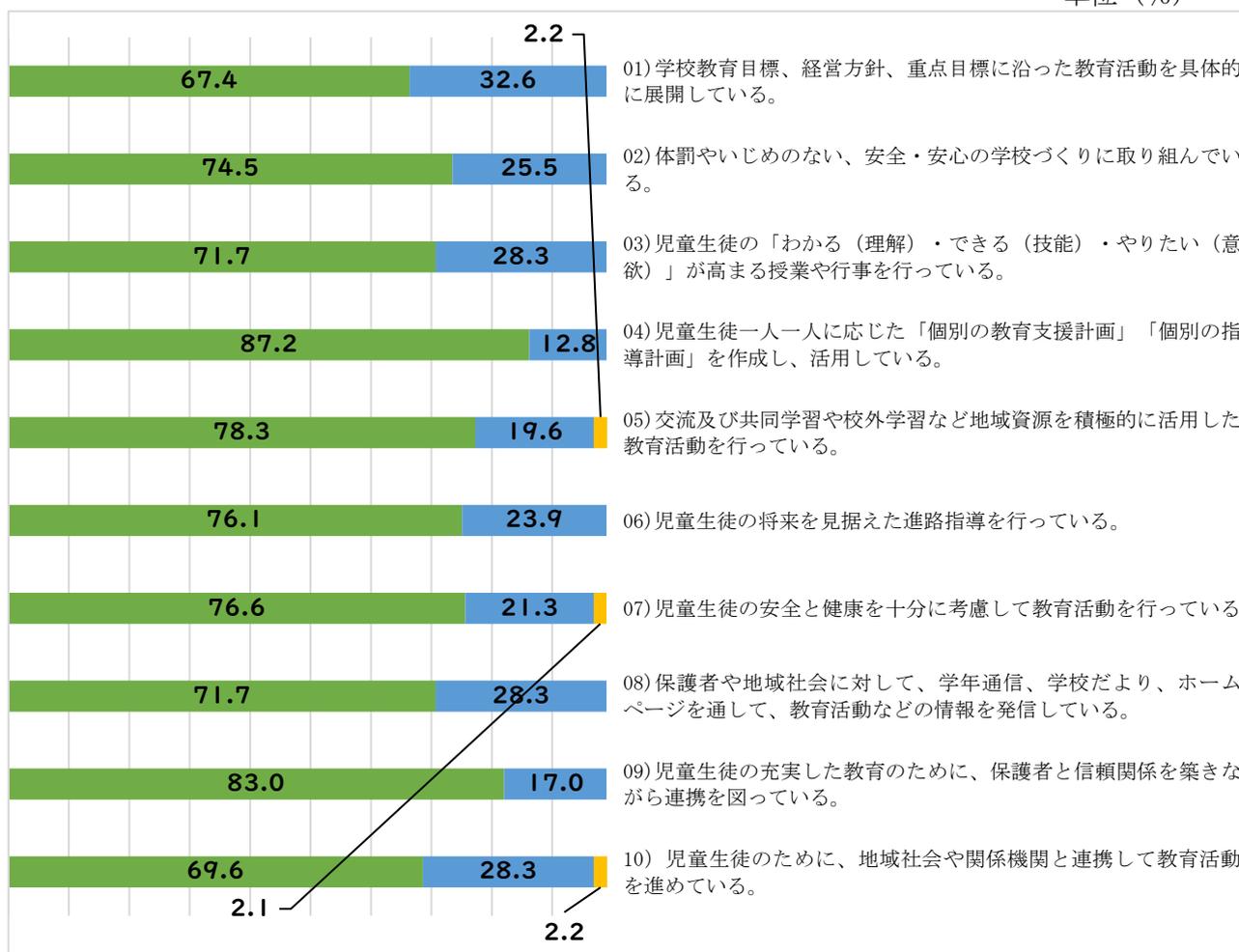
評価A：達成できている 評価B：おおむね達成できている
 評価C：あまり達成できていない 評価D：達成できていない。

イ 図1は10の評価項目を、グラフで整理した図である。

【図1：保護者アンケート集計】

(緑色：評価A / 水色：評価B / 黄色：評価C / 濃緑色：評価D)

単位 (%)



(3) 分析および考察

ア 今年度の全体的な傾向

(ア) 昨年度までは紙媒体による回答方法だった。今年度は、Google フォームと紙媒体の2種

類の方法で実施したが、94%と高い回答率となった。

(イ) 全ての項目（全10項目）で、「達成できている」と「おおむね達成できている」の評価が97%以上と、石狩紅葉山校舎の教育活動に高い評価をいただいた。

イ 高評価項目

(ア) 全ての項目で、高い評価をいただいた。

(イ) 「達成できている」の評価が一番高かった項目は、『児童生徒一人一人に応じた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、活用している』だった。また、次に評価が高かった項目は、『児童生徒の充実した教育のために、保護者と信頼関係を築きながら連携を図っている。』だった。この結果は、個別の教育支援計画や個別の指導計画を保護者と連携して作成し、それらを根拠とした学習を推進することができたことに対する評価ではないかと推測される。

ウ 低評価項目

(ア) 「あまり達成できていない」の割合が、2.1%と2.2%の項目が三つあったが、低評価として判断する項目はなかった。

(イ) 「達成できていない」の評価をいただいた項目はなかった。

エ その他（自由記述欄含む）

(ア) 評価点やコメントから全体をとおして高い評価をいただいた。この結果から、石狩紅葉山校舎の取り組みに対して、一定の理解をしていただけているのではないかと推測される。

(イ) その中で、保護者連絡や教職員の離着任についての御意見をいただいた。この点については、学級通信等を活用して保護者に連絡することとし、今年度中から取り組む。

(ウ) 今回の回答率を受けて、次年度から、保護者アンケートは紙媒体を廃止し、Google フォームのみとする。

(3) 分析および考察

ア 今年度の全体的な傾向

(ア) Google フォームで実施し、回答率は 100%だった。

(イ) 全 20 項目中、「達成できている」と「おおむね達成できている」の合計が、一項目のみ 90%を下回ったが、他の 19 項目は全て 90%以上の評価となった。

イ 高評価項目

「達成できている」の評価が一番高かった項目は、『教育公務員としてあらゆる人権侵害・差別のない社会の実現に寄与するという自覚と責任をもち、服務規律の遵守に努める。』だった。次に高かった項目は、『健康で、安全・安心な学校生活のため、学習指導を充実するとともに、環境整備や危機管理体制（含感染予防等）の充実に努める。』だった。

この結果は、学校教育目標の具現化に向けて、グランドデザインにあるコンプライアンスに関わることや命を守る教育、また、人権を尊重した指導及び支援や、マルトリートメントなどを教職員が強く意識することができたからではないかと推測される。

ウ 低評価項目

『働き方改革を意識した業務の効率化と教材研究時間の確保、また、そのための協働体制の構築』の一項目について、「達成できている」と「おおむね達成できている」の合計が 90%を下回り、76.2%だった。

この項目の改善をねらい、働き方改革アクションプランにある「改革を自分事に」「自走するチーム」「地域との協働」の視点に照らし合わせ、次のとおり具体的に取り組む。

(ア) 改革を自分事に

a 業務や行事の精選や平準化にチームで推進する。

b Google ワークスペース及び Microsoft チームスのより一層の利活用を推進し、スムーズな情報共有や業務推進に取り組む

(イ) 自走するチーム

a 各教職員が自らの役割を理解して主体的な行動を意識し、目標達成に向けて積極的に業務を推進する。

b 教職員間で活発な対話を行い、互いに支え合い、協働しながら業務を進める。

c 安心して自分の考えや気持ちを伝えられる職場環境を確保し、心理的安全性を高める。

(ウ) 地域との協働

a 社会に開かれた教育課程の実現に向け、隣接する石狩市学び交流センターや地域との連携を強化して、教育的効果の高い学習を推進する。

b 学校運営協議会を活用し、地域資源を生かした教育活動の充実に推進する。

エ その他（自由記述欄含む）

マルトリートメントの重要性について意見があった。次年度も教職員全体で共通理解を図り、学校全体の取り組みとして推進する。

3 まとめ（学校課題及び今後に向けての改善の方向性等）

保護者、教職員ともに比較的高い評価になった。結果を受け、重点教育目標や学校ビジョンの達成、学習指導、保護者との連携等の取り組みについて一定の成果があると確認することができた。

一方で、教職員については、働き方改革に係ることについて課題があることが明らかになった。

次年度に向け、評価結果を踏まえ、ワークライフバランスを意識した働き方をねらい、業務改善及び業務の平準化に取り組む。また、様々な連絡体制（電話、紙媒体、ICT等）により、保護者との連携を強化する。

そして、個々の教職員が今年度以上に学校経営への参画意識をもち、全ての教職員が連携してカリキュラム・マネジメントを推進し、自走するチームを作る。